

令和元年9月

魚津市定例記者会見



日時：令和元年9月3日（火） 午後1時30分～午後2時5分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社

NHK、KNB、チューリップテレビ、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長、
企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1) 9月市議会定例会に提案する補正予算の主な内容

- ・現在、財政立て直しのプランを策定中であり、必要不可欠なものに絞って今回の補正予算案を組んだ。
- ・一般会計補正額 121,873 千円（昨年度9月補正は 218,383 千円 △44.2%）
9月補正後の一般会計予算総額 17,787,438 千円
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(2) 魚津市と損害保険ジャパン日本興亜株式会社との連携と協働に関する協定を締結します

- ・防災や災害対策など、市の課題について協定を結ぶものである。
- ・損害保険ジャパン日本興亜株式会社と県内市町村との協定締結は、魚津市が初めてとなる。（富山県は平成29年度に協定締結済み）
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(3) 「台湾バナナで交流する会 in 魚津市」を開催します

- ・市内小学校児童及び中学校の全生徒に台湾バナナを食べてもらい、健康な身体づくりに寄与すると同時に、交流促進に役立てることを目的に実施。
- ・贈呈式は、9月25日（水）11時から、魚津市立星の杜小学校で開催予定。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(4) つくるUOZUプロジェクト「UOZUゲームフォーラム2019」

- ・「UOZUゲームフォーラム2019」を、9月28日（土）10時から、新川文化ホールで開催。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

3. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- UO!SPOin ありそドーム秋まつりを開催（9/23 ありそドーム）
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）
- 2019年度サポーター養成講習会を開催（ボッチャ 9/28 総合体育館）
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

〈企画総務部長〉

- 魚津の地域ブランド「魚津印のうまいもん」誕生
 - ・魚津の食の魅力を広く発信するための地域ブランド「魚津印のうまいもん」完成
現在、海の駅蜃気楼でのテストマーケティングを実施している。
 - ・関連イベント「魚津の秋 大収穫祭」は、9/22～23 魚津総合公園で開催
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）
- 令和元年度魚津市総合防災訓練の実施について
 - ・9/29 メイン会場は大町地区（旧魚津市立大町小学校）
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

〈民生部長〉

- 魚津市市民公開講座～高齢者の転倒の予防と治療（9/8 新川文化ホール）
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）
- 「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会を前に海岸清掃を行います
 - ・魚津市環境保健衛生協会が主催。9/21 ミラージュランド周辺海岸で開催
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

3. 質疑応答の内容

「決算の状況」について

《記者からの質問》

決算の状況について、4.3億円の基金の取崩しや2.8億円の除雪費を考慮するとかなり厳しいことはわかった。また、9月補正予算もかなり絞ったものになっており予算を抑えているが、それでも厳しいことも理解した。このような状況下で、目標を達成していくために、今後どうしたらよいと考えているか。

《回答》（市長）

先月に、二回の市民説明会を行った。現在、財政の立て直しに向けた方策の年次計画（5年計画）を立てている。この計画どおりにいっても、まだ、初年度目は4千数百万円の財源不足となっている。本日も行財政改革推進委員会を予定しているが、もう少し何か出来ることがないのかご意見をいただこうと思っている。スタート時から破綻している計画はありえないので、なんとか対策してプランを立てたい

と思う。そのうえで、計画をしっかりと実行していくために、職員はもちろんだが、市民の皆様のご理解をいただかなければいけないので、これから秋から年末に向けて、いろいろな機会をつくって、ご意見を聴いていきたいと考えている。まずはしっかりとプランを実行することを全力でやっていきたいと思っている。

《記者からの質問》

最初から破綻してはいけないと言われたが、詳しい内容として、もう一步踏み込むような話は今晚の委員会でされるのか。

《回答》（市長）

いま具体的にこういう方策でということではないが、委員からも色々と意見はいただいているので、今日の議論でもう少し突っ込んだ話をして、具体的な対策案を練っていききたいと思う。

「補正予算案 ふるさと寄附推進事業」について

《記者からの質問》

資料をみると、ふるさと寄附の寄附額が、平成30年度は1893万円、令和元年度の計画値が5600万円となっている。この推進事業のためのウェブサイト、1サイトから5サイトに増やす予算が、補正後に8400万円になると書いてあるように見える。ということはウェブサイトを作るための費用が年間で集める寄附金よりも大きいということなのか。

《回答》（企画総務部長）

ふるさと寄附の入ってくる寄附金と実際に返すものについて、どこの自治体にも言えることであるがタイムラグがある。まずは、その年に入った寄附金は、一旦地域づくり基金に全額積むことになる。今回で言うと、寄附金について、9月補正財源が3700万円増えると見込んで、その部分は全額基金に積む。前年にいただいた寄附金を基金に積んだものを、次の年の返礼品やサイトの運営費に基金から取り崩して充てるという流れになり、一年ずつ歳入と歳出がずれるような形になる。具体的にいうと、歳入から約3割の返礼品に充てる。あと事務費が少しかかる。5割くらいは、収入（寄附金額）のほうが大きいですが、年度がずれるために違って見えてしまう。仕組みとしては、入ったお金の約5割はこの事業に使って、あとの5割は純粹に寄附金としていろんなものに活用できるようになっている。

《回答》（企画政策課長）

補足すると、寄附金額の5600万円を基金に積むために、歳出として計上しなければならないということである。歳出全体としては約8400万円となるが、そのうちの5600万円は寄附金としてもらったものを基金に積むための歳出予算となる。残りの2600万円が純粹な経費となる。

《回答》（市長）

今年度の最終寄附金額を5600万円としているところは意欲的であるが、決して損をしているということではない。

《回答》（企画総務部長）

今年の寄附額 5600 万円は全部基金に積む。これが歳出として使われるのは来年になる。今年 5600 万円入ってきた分の返礼品は、昨年までに入ってきた基金から取り崩し充てている。決して、返礼品やサイトの運営のために、寄附額以上の支出があるということではない。

「魚津市行財政改革説明会」について

《記者からの質問》

この前、市民の方に対して行なった二回の「魚津市行財政改革説明会」を通して、市長として、財政難に対する思いや市民にこういう意見があるのかなど実感を持って思われたことはあるのか。また、説明会を増やされるということであるが、月一回ぐらいのペースで行うなどの考えはあるのか。

《回答》（市長）

あの際に、改まって思ったということではないが、市民のみなさんの共通理解を得ていくことが一番大事であると思っている。今回の財政再建の話は、非常に技術的なものも多いため、正しくわかりやすく伝えることはとても難しいことであると実感した。そういう意味でわかりやすく丁寧に説明していくことが必要であると思っている。そのために、今後説明をする機会をもっていきたいと思っている。ちょうど今、新しい市の総合計画を作っていく作業に入っており、計画の策定のためにいろんな意見を聴いていく機会が多くなっていく。何度も集まってもらっても市民の皆さんの負担になるので、そういった機会を利用しながら、秋から年末にかけて出来るだけ多く説明をしたり、ご意見をお聞きしたりする機会を作っていきたいと思っている。具体的なスケジュールはまだであるが、そういうイメージをもっている。